

①掲載媒体名：令和6年新春特大号<低温編>
②掲載日付け：2024年1月2日発行

イ ム ス

ダイキン

代表取締役社長

鶴田 幸大



当社の事業領域となる造船市場は、日本国内では2022年が新造船の隻数が底辺の状態でしたが、23年度も底上げに至らず、厳しい環境にあります。造船所様は現在、3年先の受注を確保されてお

り、船台が満杯状態です。もこれは、昨今の造船所の統廃合や廃業に伴い造船所数が大幅に減少、造船所での働き手も流出し、受け皿が減っているためです。世界シェアで見ると、日本の建造隻数の減少は深刻です。こうした中、昨年来の市場傾向として、原材料価格高騰に伴う価格転嫁の商談を造船所様に受け入れて頂ける環境へと改善に向かっており、船用機器の売価は少し

ずつ改善してきています。当社の事業につきましては、新造船分野は厳しい状況

国内と中国造船市場へ戦略商品投入

ですが、修繕工事での地道な種まき運動の効果や、船舶建造量世界首位の中国での事業拡大等で売上高・営業利益ともに期初段階の計画を上回る進展にあります。ダイキングループを挙げて取り組む、2025年を最終年度とする戦

略経営計画「FUSION25」で当社が掲げた定量目標に即した進展にあると言えます。23年度の営業活動では、内航船は大型船、官公庁船、特殊船での受注拡大に重点を置いています。また当社が現地拠点を構える中国やシンガポ

ールを基点に、海外の船主様や造船所様への新造船・修繕工事の獲得を目指した開拓営業でも成果を上げています。特に当社が船用空調・冷凍装置の製造拠点を構える中国市場での最善化戦略を加速したことが寄与しています。

ある室内向けに、当社が保証を付けたマルチ方式の機種を今年から本格展開します。また近年の海運業界では脱炭素化意識の高まりを背景に、船舶の燃料を従来の重油からLNG・メタノール・アンモニア等の新燃料へ転換する

新たな商品戦略では、内航を主とする中小型船舶向けに、低GWP冷媒のR32を採用した船用小型空冷式エアコン「キャンパスパートナー」を昨年11月に発売しました。これを発表し、まずは中国市場向けに受注を開始しました。

ダイキングループの強みを生かした機器の開発力のもと、当社最大の武器は船用空調・冷凍設備に特化したエンジニアリング力にあると心得ます。技術に裏打ちされたVD提案を積極的に行い、船主様や造船所様にメリットを生むエンジニアリングで顧客評価を得て、社業の付加価値を高めてまいります。そのための人材育成に新年以降も経営資源を投じます。

①掲載媒体名：令和6年新春特大号<空調編>
 ②掲載日付け：2024年1月1日発行

国内では船用小形空冷式エアコン

ダイキンMRエンジンアリングが新商品

中国向けにはHP式空調機を訴求

ダイキンMRエンジンアリング(社長「鶴田幸大氏、本社・大阪市淀川区西中島5-15-15)は昨秋、国内の造船業界向けに船用小形空冷式エアコンの新モデルを発売した。中小型の内航海での居住区の個室等での使用を想定し、室外機と室内機を1台ずつ接続するタイプと、室外機1台で室内機を最大3台まで接続できるマルチ接続タイプ

の暖房が難しくなる。そこで、同社は電気エネルギーとHPサイクルで省エネ暖房を可能にする空調機を商品化し、まずは新燃料への転換の動きが先行する中国の造船市場向けに売り込む。

ダイキンMRエンジンアリングはダイキン工業のグループ会社。船用空調は冷凍分野に特化した機器開発と設備エンジニアリング、保守サービスを

一貫して手掛けている。昨年11月に発売した船用小形空冷式エアコンの商品名は「CABIN P ARTNER(キャビン・パートナー)」。陸上分野のルームエアコン(RAC)でラインアップされているシステムマルチタイプと同様に、1台の室外機で複数の室内機を接続できる。「キャビン・パートナー」では1台の室外機に対し、室内機3台までの接続が可能。冷房時の能力5.3kW、6.0kW、6.8kWの3機種をラインアップした。

鶴田社長は「船舶業界では、中小型船の居住区の個室に個別の空調設備

を設置する場合、陸上分野のRACを代用する場合は少なくない。ただこの場合、陸上で使用することを想定したRAC本来の使用条件と異なるため、メーカー保証対象外となる。当然ながら、塩

害や船体の揺れによる故障リスクもある。船主様や造船所様は、故障したら取り替える覚悟で市販品のRACを船内に設置される傾向にあった。そこで、当社が船用専用設計思想でダイキン工業と連携して開発し、サービステルを充実させた上で保証も付けて販売することにした」と話す。

同製品は耐塩害仕様であることほ、外気温が20度から50度Cの環境下での運転が可能。冷媒には環境負荷の少ないR32を採用した。室内機側にも船舶専用設計が施され、船舶特有の振動・傾斜(揺動)に対応する。両側ドレン排水仕様としていた点も特長。室内機は壁掛け以外に床置形も選択できる。操舵室では視界を遮らない位置形が好まれる(鶴田社長)。

他方、外航海など大型船向けにHP式空冷式空調機の商



「マリンテクノチャイナ2023」にも展示したHP式空調機を展示

品名は「ヒートポンプ式デッキユニット」。HP一体型構造で、水冷式空調方式を生かせる設計を同社が施した。船内で循環させている清水を熱源水とし、本体ユニット内に取り込む。ユニット内では、フロン冷媒によるHPサイクルを活用し、従来方式で必要だった蒸気ヒーター、蒸気配管、蒸気弁、パネルが不要になる。省スペース、省施工、省コストに貢献する。冷媒には、船用分野で低GWP冷媒とされるR407Hを採用した。

同社は昨年12月5-8日の間、船舶分野で中国最大級の展示会として上海市内で開催された「マリンテクノチャイナ2023」に出展。その際、自社ブース内で「ヒートポンプ式デッキユニット」の実機を展示した。船用業界初の製品であることに加え、中国の船主や造船所に対し、同社の営業社員が新製品の告知活動を強化していたことから、会期中、同社ブースに多くの来訪があったという。実際に採用を検討したいとするお声も頂けた」と鶴田社長は手応えを語った。

※記事の社内共有および当社HPへの掲載は、発行元より許可を得ております。